

提出日： 2025 年 4 月 21 日

研究促進期間制度 研究実績報告書

所属学部・研究科	身分	氏名
法学部	准教授	西 亮太

研究期間	以下1～4より、取得した研究機関を選択し、該当番号を右欄にご記入ください。	
	1. 2024年4月 1日 ～ 2025年3月31日	1
	2. 2024年9月 1日 ～ 2025年8月31日	
	3. 2024年4月 1日 ～ 2024年9月20日	
	4. 2024年9月21日 ～ 2025年3月31日	
活動報告	研究期間中に実施した研究活動を具体的にご記入ください。 海外活動補助費を受給した方は、海外活動の内容が分かるようにご記入ください。	
	研究期間中は、主にアーカイヴ調査と当地の研究者との共同研究・研究交流を行った。アーカイヴは、受け入れ大学である Swansea 大学の Richard Burton Archive および The South Wales Miners' Library を利用し、前者においては主に Raymond Williams の 1980 年代の手稿を閲覧し、後者においては主に 1980 年代の労働運動に関する資料調査を行った。共同研究・研究交流については、受け入れ期間である Swansea 大学の責任者である Daniel Williams 氏を中心に、同大学の研究者と小規模な研究会を複数回行った。また、こうした研究および交流により、年度末の国際シンポジウムを開催することができた。	
得られた研究成果について	上記の研究活動の結果、得られた研究成果についてご記入ください。	
	アーカイヴ調査および研究交流の結果、R. Williams 晩年の思想の一端が見えてきた。とりわけ、あまり注目されることの少ない晩年のエコロジー思想が、どのような形で彼の生涯を貫いた軸の一つであるソーシャリズムへの信頼およびウェールズナショナリズム、とりわけウェールズの言語と連関していたのかが、ある程度見えるようになってきた。また、ほぼ同年代である 1980 年代半ばの労働運動の状況についても多くを検証することができた。とりわけ、1984-1985 年の大規模ストライキにおける女性の反閉山運動の広がり、反戦・反核・エコロジー関連などのより広範な問題を対象とする社会運動（例えば Greenham Common Women's Camp）との関わりを実証的に検討できたことで、当時のウェールズを中心とした市民社会の実相をより詳しく知ることができた。	
今後の計画について	得られた成果を踏まえ、今後どのように研究を発展させる計画か、ご記入ください。	
	今回の研究期間で得られた研究者ネットワークを元に、今後数年間にわたって共同研究およびシンポジウム等学術イベントを行う予定である。	